

学習内容報告書 フォーマット

学校名	熊本県天草市立御所浦小学校
授業者	5年担任 教諭・田嶋俊樹、環境美化委員担当 教諭・有馬晴香

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

御所浦の自然を守ろう！

「ふるさとの環境について考える～御所浦の環境問題・アマモの栽培～」

1-2. 学年

5年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、児童会活動

1-4. 単元の概要

本校区は、離島であり、校区内にも離島を有する学校である。本事業は、このように海に囲まれた環境で育つ児童にとって、より海を身近なものに感じてほしい、地域を愛する心を育ててほしい、大人になって故郷を発展させる人材になってほしいなどという願いから、御所浦の環境や漁業について学び、校内に、身近な海で採れた海洋生物を入れた、海水の水槽設置を実現した事業である。

本校では、総合的な学習の時間でふるさと、御所浦について学んでいる。本事業では、5年生の総合的な学習の時間を中心に、御所浦の環境について考え、それを守ってきた人々の努力を中心に行った。5年生では、まず、御所浦の水が他の地域から供給されていることから、御所浦の水資源に着目することで、御所浦の環境について考えた。その後、御所浦の海を守るためにどのような活動が地域で展開されているかを学んだ。その一環として、御所浦の豊かな海を守り続けるためにも、海のゆりかごとと言われる「アマモの栽培」に着目した。御所浦漁協や水産研究所、天草海部の協力を得ながら、アマモについて調べ、アマモの栽培、管理からアマモの植え付け、海洋生物を身近に感じるための、校内に海水の水槽設置までを行った。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

地域で取り組まれている、海のゆりかごとと言われる「アマモの植え付け」について学習し、児童自ら栽培と日々の水替え等の管理、海への植え付けの一連の活動を行うことで、より水産資源や環境保全への意識の高揚を図ることができる。環境保全について、児童が身近に海洋生物を見ることができれば、今後、ふるさと御所浦を愛し、御所浦の水産資源を保全していく心情を育む。

これらのことから、本事業の主旨を達成すべく、本単元を設定した。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- (A 課題発見力)・・・海や環境について自分が調べたいテーマを考えることができる。
- (B 問題解決力)・・・御所浦の今と昔の海の現状を理解したり、水産研究センターでのアマモ作りをしたりして、環境問題についての的確な方法で調べることができる。
- (C 表現・発表力)・・・調べたことやわかったことを、グループごとに環境新聞としてまとめることができる。
- (D 生活に生かす態度)・・・単元の学習によって御所浦の海や自然を愛する気持ちを高め、自分たちができる活動を実践することができる。

1-7. 単元の展開 (全35時間)

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
5	<p>1. 御所浦の水産資源や海、環境について関心を持ち、学習の見通しを立てる。</p> <p>①御所浦の現在の海はどんな状況か、近くの海に観察に行く。</p> <p>②御所浦の水産資源や環境について知っていることを話し合う。</p> <p>③これまでの体験や知識から話し合い活動を行う。</p>	<p>・身近な海の現状から、公害問題や環境への関心を高めさせる。</p> <p>・学習シートを準備し、「今と昔の自然」についての比較を行わせたり、地域のまちおこしにはどんなものがあるかをイメージマップにまとめたりする。</p> <p>評価 (観点・方法) 御所浦の海と環境について、自分で課題を見つけることができたか。(A・学習シート)</p>
15	<p>2. 海や自然など各課題について調べる。</p> <p>①調べたいことを決めて、学習計画を立てる。</p> <p>ア、御所浦の海について イ、アマモの栽培について</p> <p>②計画にそって調べる。</p> <p>(例) 現地で調査活動 (アマモの植え付け、校区の海岸観察、養殖漁業見学等)、家族へインタビュー、インターネット、地域の人 (漁協など)</p>	<p>・学習計画表を準備し、調べ学習が計画的に進められるようにする。</p> <p>・関係各機関への協力依頼。(御所浦漁協、水産研究所、天草海部等)</p> <p>・調べ方やインタビューの仕方についての指導。</p> <p>評価 (観点・方法) インタビューなどの調べ活動を通して、課題を探求することができる。</p> <p>(B・観察、学習シート)</p>
10	<p>4. 新聞を作ったり、海水の水槽 (ごしょっこ水族館) の普及のための工夫を考えたりする。</p> <p>①調べたことをもとに紙面構成を考え新聞を作る。全校児童や地域が「御所っ子水族館」に親しみ・関心を持つための工夫を考える。</p> <p>②学習発表会で学習したことを発表する。</p>	<p>・読む人を意識した紙面づくりの支援する。</p> <p>・自己評価や相互評価ができる評価用紙の準備。</p> <p>評価 (観点・方法) 新聞にわかりやすくまとめ、発表することができる。(C・福祉新聞、観察)</p>
5	<p>5. 新聞の広報や体験活動の報告成果発表会、学校ホームページ、マスコミ等を通して、地域の方へ情報を発信する。</p> <p>①校内、地域への掲示。</p> <p>②ホームページ用記事、ポスター、動画等の制作。</p>	<p>・多くの人に知らせることができるよう、広報活動ができるようにする。</p> <p>・御所浦をPRするようもの (ポスター・動画等) をみんなで作る。</p> <p>・地域の一員として、自分たちのふるさとのよさに児童が気付けるように振り返らせる。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

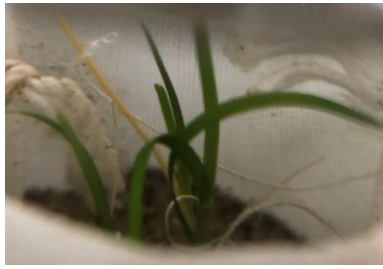
2-2. 本時の目標

海のゆりかごとと言われるアマモについて理解を深め、アマモの移植を通して、御所浦の海洋資源保全について自分たちができることを考えることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1. 関係者の自己紹介をする。(御所浦町漁協、アマモの研究者、漁業関係者、養殖業関係者)</p>	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>← 教室後方に映っている方々が、関係者である。</p> </div> </div>
<p>2. 漁協の方からスライドを使って、アマモの役割についての説明を受ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を学習のゴールとつなぐために、アマモについて知ることが、御所浦の水産資源保全のために自分たちに何ができること発信することを単元のゴールとしていることを常に意識させる。 ・環境保全を自分事としてとらえさせるために、アマモについての事前学習を十分に行い、質問等積極的にできるようにさせる。 ・今回のアマモの植え付けの仕方が今後の生育に大きく影響するため、関係者の手順をしっかりと聞き、アマモの種も丁寧に扱わせるようにする。
<p>3. 学校横にある水産研究所でアマモ植え付けの説明を受け、一人2個ずつ植え付けをする。</p> <p>【アマモ植え付け手順】</p> <p>①袋に土を入れる。</p> <p>②アマモの種を植える土をかぶせる。</p> <p>③瓶の海水の中に袋を入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人2個の「Myアマモ」を育てていくことで、責任感を持たせる。→右の写真がMyアマモの瓶
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価 (観点・方法)</p> <p>アマモの役割を理解し、アマモの植え付けが環境保全につながることをつかむことができる。</p> <p>(B・観察、学習シート)</p> </div>

4. 今後の水替え等の説明を受ける。



5. 船に乗って、アマモ場に行く。アマモが育っている姿を見せてもらう。



- アマモの継続的な観察とアマモ場に植え付けるまでの責任感を持たせるために、週に1回、学校横の水産研究所に行って、アマモの水替えを行う。

- 自分たちの活動が実際の海でどのような形で環境保全につながっているかをイメージさせるため、実際に以前アマモが植え付けられ、成長しているアマモ場を見せる。実際にイカの卵等が産み付けられた様子を見ることで今回の活動が環境保全につながることを実感させる。

3. 今回の活動の自己評価

- 御所浦町漁協、アマモの研究者、漁業関係者、養殖業関係者等、多くの関係機関の方々のご協力で事業を進めることができ、御所浦町地域全体で環境保全を進めていくという思いが児童にも伝わったと感じた。
- アマモが育っている姿を見せていただくことで、今回のアマモの種の植え付けがどのような形で環境保全につながっているかを実際に自分たちの目で確かめることができた
- 一人2瓶の「Myアマモ」を作り、継続的に観察、水替えを行うことで、環境を守り続ける大変さと必要性を感じ取らせるきっかけとなった。
- アマモの種付けが環境保全を考えるきっかけとなり、身近な海の生き物に関心を持つことにつながった。
- 海水循環型の水槽設置には、苦労した。しかし、地元住民のご厚意、ご協力で機材購入や水槽設置に伴う知識等が確保でき、本事業の予算を活用することで、海水循環型水槽「御所っ子水族館」が完成した。
- 学校通信や学校ホームページに本事業の活動内容を紹介することで、地域の方々や保護者から「珍しい魚が網に入ったから、今から学校（御所っ子水族館）に持って行きます。」という連絡が多く入った。身近な海洋生物を児童の身近に感じてもらいたいという学校の思いと地域の思いをつなげることができた。
- 「アマモの植え付け」の様子や「御所っ子水族館」の設置後は、マスコミ各社にも来校していただき、新聞、テレビ、ケーブルテレビ等で取り上げていただき、県内各地から反響があった。

4. 今後の課題

- アマモの管理は、とても難しく、腐らせないためにも定期的に専門家の助言も受けながら、アマモの生育を見届けていく必要がある。
- 今後、御所っ子水族館のPRとともに、設置に係る設備の維持管理が必要である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

--